

# 中学校特別支援学級における頻繁にトラブルを起こす生徒の捉え方及び教師との関係性の変化が生徒に及ぼす影響

## ～エピソード記述を用いて～

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 特別支援教育実践系

氏名 (藤井 安規)

本研究において、自閉スペクトラム症である生徒（A君）に対する「頻繁にトラブルを起こす大変な生徒である」との教師（私）の捉え方に変化が起こり、その生徒のありのままを受け入れて、好きなことを通して関係性を深めていくことによって、生徒の行動改善につながった事例についてエピソード記述を用いて考察した。

私のA君への捉え方が、「今、何とか教育しなければならない生徒」から「ありのままを受け入れることが必要な生徒」へと変化すると、私とA君との関係性は「敵対関係」から「信頼関係」へと変化していった。

A君が安心でき、私と信頼し合える関係作りのために、「支援の前に人付き合いをする」「評価のまなざしを捨てる」「主体性を育む」ように心がけた。

A君は学校生活において、少しずつモチベーションが上がり、様々な活動に前向きに取り組むことが増えた。子どもの自己成長力を信じてA君が主体的に行動することを教師集団が粘り強く待つことができた成果である。子どもたちは脅かされず、大人があたたかく信頼して見守ってくれる居場所があれば自分の内にある本来の力を自ら発揮し、成長しようと動き出すことが確認できた。